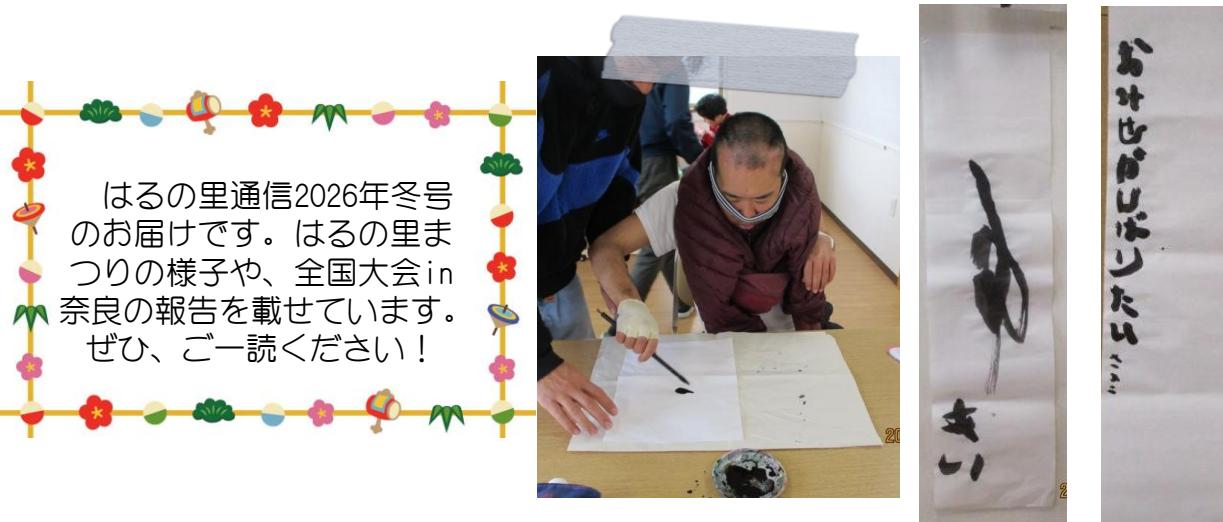


はるの里 通信

発行元 〒615-8241 京都市西京区御陵谷町7-1
 社会福祉法人はるの里 TEL/FAX 075-394-5930
 生活介護事業所はるの里 URL <https://www.harunosato.com>
 題字：山下公子さん



お知らせ



募集形態：正規職員・パート

仕事内容：作業や製作、散歩や買い物などの活動と一緒に取り組み
一人では食事やトイレが難しい方の介助を行います。
朝夕の送迎ドライバー（ハイエース）も急募です！

勤務日：月～金、第三土曜（職員会議）

給与（初任給）：194,600円（大卒）～
(処遇改善加算を活用した特別手当を含む)

時給：1,192円～（勤務時間や手当による）

ボランティアさんも活躍しています
見学だけでもお気軽にどうぞ！

TEL：075-394-5930 担当：出田・村井

ホームページも是非ご覧ください！



いつも空き缶の提供、回収にご協力
いただきありがとうございます。

2025年10月～11月のリサイクル活動
による収益は28,700円でした。

収益金は仲間たちの給料となります。

きょうせんの冬のカタログ販売で
120件を超す個人・団体の方にお買
い求めいただき、100万円を超える
売り上げがありました。

純利益が仲間の冬のボーナス支給に
なります。ありがとうございました。

ご寄附

お名前の記載許可をお聞きできなかった方は
イニシャル表記にさせていただいております。

- ・ Aさま お菓子
- ・ Mさま お菓子
- ・ Kさま お菓子
- ・ Iさま お菓子、果物
- ・ バナナ加工組合さま バナナ
- ・ Kさま お菓子
- ・ Kさま、Tさま金一封 （関係者除く）
- ・ 11月16日のはるの里まつりに50件近い方からバザー物品提供、ご寄付を頂きました。

ありがとうございました。

きょうされん第49次国会請願署名お願い



はるの里が加盟している「きょうされん」は、"あたりまえに働きえらべる暮らしを"をスローガンに約1800の事業所が集まり任意で活動する団体です。障害があっても安心して暮らせる社会を目指し、結成以来48年に渡り「国会請願署名・募金活動」を継続して行っています。

この国会請願署名は日本国憲法16条で定められている請願権に基づいており、障害のある人の生活の向上、またそれを支える福祉事業所の運営や制度・政策の改善について国会議員を通して国会で審議していただくように働きかける制度です。

多くの方に、障害のある人たちの「あたりまえの願い」や「日々の暮らしの実情」を知ってもらい、その声を粘り強く国に届けていくことが必要です。そうした多くの人の声を力にして、誰もが安心して暮らせる社会制度の実現を目指していきたいと考えています。



<署名の方法>

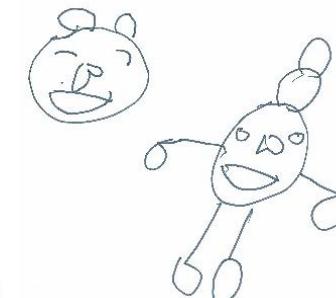
- ・請願趣旨に賛同していただける方でしたら年齢による制限はございません。
- ・国籍による制限はありません。日本国内に在住の外国の方も請願することができます。
- ・住所は都道府県からご記入ください
(同住所の方がいても ノ ではなく、ご記入ください)。
- ・署名用紙には10名分の記入欄がありますが全て埋まらなくとも有効です。
- ・署名は本人の同意があれば代筆可能です。

※通常国会の終盤に（5月の中旬）提出しますので、3月末までにご提出いただけます。何卒よろしくお願ひいたします。

※お近くにお住まいの方は、はるの里に直接お持ちいただき、ご連絡いただければ受け取りに伺います。

矢印 つてください

ごきょうりんくふくはながいります



理事長あいさつ

新しい年を迎えました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。昨年もはるの里まつりなど様々なご支援ありがとうございます。『はるの里』は、その暮らしを障害のある仲間と職員の働きで日々、創り出しています。

ある昼下がりの静かな『はるの里』をのぞいた時のことでした。玄関ドアを開けると仲間の楽しそうな声が聞こえてきました。職員に着物を着せてもらっている様子でした。

「こんにちは」と声をかけると、玄関に立っている私に気付いて、赤い花柄の着物を着た仲間が満面の笑顔で長い袖を揺らしてそばへ来てくれました。「素敵でしょ」「花嫁さんみたい」と心の会話。

その後ろから黒っぽい着物を着た別の仲間。恥ずかしそうで照れた顔で嬉しそうでした。「花嫁さんのお母さんだ」と思わず私は声が出てしましました。その様子を見て微笑んでいる職員を見ていると、私はあつたかい気持ちになりました。

昨年の『はるの里』まつりで、平和を語るピースの部屋が企画され、参加させていただきました。みなさんの話し合いの中で、「平和とその対極にある戦争」を人権の視点でとらえると、より身近な課題や問題として見えてくること」を学びました。そして、コーディネーターの方の

「私たち・障害者支援に関わっている者たち、だからこそより身近な問題では・・・」という思いに深く共感しました。

障害のある人もない人も、共に安心して暮らせる地域社会をめざす『はるの里』の営みは、平和な暮らしの中にこそあります。

今年も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。

— このお正月、彼女たちは着物着て楽しんだかなあ —



2026年 正月
社会福祉法人はるの里
理事長 中神 常雄

きょうされん第48回全国大会in奈良

2025年10月17日(金)・18日(土)、「はじめよう戦後80年から・咲かせようまんまの笑顔を～みんなのチカラ奈良の地から～」をテーマに、きょうされん第48回全国大会in奈良が開催されました。全国各地から障害のある人600人を含む2200人の参加者、300人をこえるボランティアの方が集まり、笑顔あふれる大会となりました。はるの里からは、2日目に行われた14の分科会に職員が参加し、学びを深めました。一部感想を紹介します。

私は分科会「国際交流」に参加させていただきました。カンボジアで障害者、その家族を支える活動をされているフェン・サムナンさんという方のお話を聞き印象に残ったことを2つ紹介させていただきます。

まず一つ目は、病院に行っても「障害がある」という理由で治療が優先されず、そのまま命を落としてしまうことが今もなおカンボジアでは起こっているということです。その悲しい背景には、病院数やスタッフ不足、貧困の格差など今すぐには解決できない問題を日々抱えているという現実があります。そして、何よりも多くの障害者がその犠牲となってしまうということです。胸に何かが突き刺さるような気持ちになったと同時に、「命」とは何なのかを改めて考えさせられるお話をでした。

二つ目に印象に残ったことは、サムナンさんが働かれている障害者支援サービス「DDSP」の活動についてです。インクルーシブな町づくりを目指したバリアフリー化（手すりや点字ブロックの設置等）、障害者雇用の拡充、職業訓練などの他にも、日中一時支援やデイケアサービスを作り、今まで付きっきりで見守るしか選択肢のなかった親が働きに出て収入を増やすことができたり、親同士のコミュニティができたりと、経営困難という状況の中でもカンボジアに福祉の輪を広げるため、様々な取り組みをされているんだなと感じました。こうした外国で起こっている福祉の状況を生の声でお聞きすることが今までなかつたので、きょうされんを通じて貴重な経験をさせていただきました。

「オーチン！」（カンボジアでありがとうという意味です。）

（職員：岡田）

「重度・重複障害のある人への支援」という分科会に参加し、加齢に伴い生活が変わっていっても楽しく日々を過ごすためにどのような支援をされているのかを学びました。MさんがG Hに入所された時、作業や地域交流を楽しんで生活されていましたが、歳を取るにつれて認知の症状が見られるようになり、本人さんの行動が変わっていきました。特に脱衣行為に対して、どうしたらご本人に寄り添える支援ができるかを職員が検討する中で、脱衣してもいいようにパーティションでご本人を囲う対応をすることになりました。そうすることから脱衣行為が減少してきたとのことです。Mさんは今、穏やかに過ごされています。支援を振り返った時に「ご本人はどう思われているか」を考えながら相手に寄り添い、環境を整えることが大切だと学びました。

（職員：鈴村）



わたししが思うはるの里

今回は、今年のはるの里まつり実行委員長としてご尽力くださった小林さんにはるの里への思いを語っていただきました。まつりの実行委員会でも「仲間が楽しめるまつりにしたい」という思いで、ご協力くださいました。

はるの里まつりに関わらせていただいたのは、今回で2回目です。様々に催しが素敵なのはもちろんですが、毎回開催されるシンポジウムがとても素晴らしいと感じています。今回は戦後80年の節目にちなんで平和について考えるシンポジウムが開催されました。広島平和記念資料館を見学された若者たちによる感想発表と意見交換はとても好ましく思え、心がワクワクしながら聞かせていただきました。

戦争というのは、他人の不幸の上に自分の幸福を築こうとする行為であり、エゴイズムの最たるものであると考えています。私たちは幸福とは自他ともに築くものであると歴史で学び行動するように教わってきました。でも世界ではまだ戦争が続いている。何故そうなってしまうのでしょうか。国連のユネスコ憲章では、前文に「戦争とは人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と80年前に採択されています。この心の中の平和のとりでとは、どうすれば築けるのでしょうか。理想と現実は違うとあきらめるのではなく、理想に向かって頑張るにはどうしたらいいのでしょうか。それは、ひとことで言えば、友達作りだと思っています。どんな人でも素晴らしい心根があります。それを見逃さないように自分の心が成長していくことが大事だといつも思っています。

はるの里では、みんなのことを「なかま」と呼んでいます。なんと素晴らしい心のありようだと感動しています。この心を地域に広げていけば、平和はきっと築けると楽しくなってきます。何も難しいことを論じる必要はありません。縁する人たちの幸福を願い、心から楽しく接することが私の生き方です。それが平和を築く秘訣だと信じて、これからも「はるの里」と仲良くお付き合いいただきたいと思います。

松陽社会福祉協議会 会長 小林稔



第23回はるの里まつり開催

2025年11月16日(日)第23回はるの里まつりを開催しました。さわやかな秋晴れの下、「これからまつりが始まります！」と堂々とした仲間の開会宣言に続き、みんなで練習した2曲のウェルカムソングで元気いっぱいにまつりがスタート。総勢100名を超す関係者と地域の方々をはじめたくさんの方々が来場者で、どのブースも大盛況でした。「仲間が主役」で「地域とのつながり」を確かに感じられるまつりとなりました。



大盛況のバザー



自主製品の販売



子どもに人気のスライムづくり



名物のおでんや炊き込みご飯



ひーすの部屋

先の大戦から80年の節目の年、私たちの生活の根底になる平和について改めて考えるシンポジウムを開催しました。

平和について、若者たちの実際の取り組みの報告や観覧いただいた会場の方々との意見交換など、平和の大切さを感じる時間となりました。



虹色クローバー
SevenRoses

